

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4570101925		
法人名	有限会社高木ライフ企画		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	宮崎県宮崎市鶴島3丁目50番地 (電話) 0985-35-0227		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年9月26日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の中心市街地に近く歴史のある住宅地で、緑が多い静かで恵まれた環境の中にホームは立地している。建物は民間の職員寮を改修したもので、1階にデイサービスがあり2階を使用しているところから、構造面や安全面でかなり厳しい面がある。職員のしっかりとしたサポートにより階段の上がり降りを利用者のリハビリに活用する等工夫している。また、地域自治会に加入し管理者が班長として地域との交流を深め、祭りへの参加やボランティアを積極的に受け入れている。利用者は全員元気で明るく親切な職員に支えられ安心して暮らしている。

【情報提供票より】 (平成20年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年3月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤0人, 常勤換算6.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年7月25日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	4	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.1歳	最低 69歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木内科・胃腸科
---------	----------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を踏まえ、改善計画シートを作成して具体的な改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員会議で話し合い、評価の意義の理解とサービスの質の向上に全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は5か月~6か月に1回開催し、ホームの運営状況等の報告を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回開く家族会や運営推進会議に、多くの家族が参加するように働きかけ、家族の意見や不満がしやすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入しており、管理者が班長として地域住民との交流に努めている。また、祭りへの参加やボランティアを積極的に受け入れる等地域との連携を強めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域の中で、安心して暮らし続けることができる支援を基本として、理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、地域密着型サービスの理解に努め、理念を共有し、日々のケアに生かす取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、管理者が自治会の班長として、地域住民との交流に努めている。また、祭りへの参加やボランティアも積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえ、改善計画シートを作成して具体的な改善に取り組んでいる。また、自己評価は職員会議等で話し合い、評価の意義の理解とサービスの質の向上に全員で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、5か月～6か月に1回開催し、ホームの運営状況等の報告を行っている。	○	運営推進会議は、利用者や家族をはじめ、地域包括支援センターや行政の職員等幅広い立場の人の参加を働きかけ、2か月に1回以上の開催を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者や地域包括支援センターの職員との連携がとれていない。	○	事業の推進上行政は重要な存在であり、ホームの運営の状況や当面の課題について報告する等連携を図ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の健康状態や日々の暮らしぶりをきめ細かに伝えている。また、定期的にホーム便りの発行と金銭管理の報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回開く家族会や運営推進会議に多くの家族が参加するように働きかけ、家族の意見や不満がしやすい雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者が職員異動等からのダメージを防ぐために、離職や異動を最小限に抑える努力をしている。当初から職員の離職が少なく、信頼関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、法人内・外の研修にできるだけ多くの職員が参加できるように配慮している。また、研修の結果は職員会議等で全員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に毎回参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に1泊2日の体験利用や職員が自宅や施設を訪問して徐々になじめるように、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、日々家族のように過ごしながら昔話をしたり、利用者から料理の作り方や生活の知恵を学ぶ等、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日々の行動や言葉、表情の中から希望や思いを把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、管理者と職員による全体会議で検討し、家族の意見や職員のアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月に1回定期的に見直し、状況の変化が見られる場合は随時見直しを行っている。	○	定期的な見直しは行われているが、さらに予防的な対応を含めて、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向や状況の確認を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院や外出、買物等柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医院をほとんどの利用者が掛かりつけ医としており、月に1回の往診や緊急時の対応ができる体制にある。また、いつでも気軽に相談できる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けたあり方について、家族を含めた関係者の具体的な話し合いと、方針の共有ができていない。	○	重度化した場合の対応について、本人や家族、関係者と具体的な内容について話し合い、関係者全体の方針の統一を図ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の誇りや人格を損ねるような言葉かけや対応がないように、職員は細心の注意をしている。また、秘密保持の徹底も図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や希望にあわせて、1階のデイサービスを利用したり、買物、散歩、ドライブ等自由に自分のペースで暮らせるように柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の下ごしらえや後片づけをしており、同じテーブルを囲んで同じ物を食べ、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるように支援している。気のあった利用者同士で入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の下ごしらえ、後片づけ、花見、ドライブ等一人ひとりの役割・楽しみごとを作り出す働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の体調や希望に沿って、大淀川の堤防を散歩したり、近くのスーパーでの買物、デイサービスの方々との交流等できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2階にあり、階段が急なこともあって、危険防止の立場から日中玄関に鍵を掛けている。	○	建物の構造上の問題がありかなり厳しい面があるが、職員の見守りの徹底や利用者の外出のくせをつかんで対応する等、何とか鍵を掛けずに過ごせる方法はないか検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て、1階のデイサービスと一緒に災害訓練を実施している。また、自治会を通じて地域の人々からの協力が得られるように働きかけを行っている。	○	非常災害時の対応については、職員の対応だけでは限界があるので、避難訓練に住民の参加をいただく等地域の協力が得られるように、さらに働きかけを行ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量は毎日チェック表で管理しており、利用者の嗜好や希望を取り入れたバランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、建物の構造上の問題があり、全体的に若干狭い感じがするが、テーブルやソファの配置の工夫やベランダには季節の花や野菜が植えられ、家庭的で落ち着いて生活できるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ、家族の写真、鏡、身の回りの小物等が持ち込まれ、居心地よく安心して生活できるように工夫されている。		

※  は、重点項目。